

日本サインデザイン協会60周年記念 「大サイン展」 伝える つなげる Sign×Society×Story サインデザイン分野で初となる展覧会を東京ミッドタウンで開催

東京ミッドタウン・デザインハブ（構成機関：公益財団法人日本デザイン振興会、公益社団法人日本グラフィックデザイン協会、多摩美術大学 TUB）は、特別展「日本サインデザイン協会60周年記念 大サイン展 伝える つなげる Sign×Society×Story」を2026年4月24日（金）から6月7日（日）まで開催します。

日本サインデザイン協会（SDA）がこの世に生まれて60年。サインデザインを取り巻く社会環境は大きく変化し、その領域や社会的役割も案内板や誘導サイン、看板や標識といった従来の枠を超えて広がってきました。いまやサインデザインは、都市や建築、公共空間、商業環境、文化活動など、さまざまな場面において、人と人、人と場所、人と社会をつなぐ存在となっています。こうした歩みと現在地を社会に広く伝えることを目的に、サインデザイン分野では初となる展覧会「大サイン展 伝える つなげる Sign×Society×Story」を開催いたします。本展では、「過去・現在・未来」という時間軸を通して、サインデザインが果たしてきた役割と進化の軌跡を検証し可能性を展望します。

『環境における新しい価値観を、情報によって創出する』—これこそがサインデザインの本質です。その領域はひとつの定義に収まるものではなく、ときに境界を越えながら社会とともにかたちを変えてきました。だからこそ、そこには尽きることのない可能性と、人の心を動かす力があります。本展を通して、サインデザインの多面的な魅力をぜひご体感ください。

●開催概要

名称：東京ミッドタウン・デザインハブ特別展

日本サインデザイン協会60周年記念 「大サイン展」 伝える つなげる Sign×Society×Story

略名：「大サイン展」 伝える つなげる Sign×Society×Story

会期：2026年4月24日（金）～6月7日（日）会期中無休

会場：東京ミッドタウン・デザインハブ（東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー5F）

開館時間：11:00-19:00（最終日は16:00まで）

入場料：無料

主催：公益社団法人日本サインデザイン協会（SDA）

共催：東京ミッドタウン・デザインハブ

URL：<https://www.designhub.jp/exhibitions/sda2026>

●展示内容

- ・サインを読み解く11のコンテキスト | 77のプロジェクト | 戦後から現代へ
- ・Material-tone
- ・PARCO × 五十嵐威暢

●SDAとは

公益社団法人日本サインデザイン協会（SDA）は、サインデザインの向上と普及を目指して、1965年に発足しました。本協会は、サインデザイナーはもちろん、グラフィックデザイナー、インテリアデザイナー、照明デザイナー、建築デザイナー、景観デザイナー、およびこれらに関する教育機関、研究機関、関連企業など、多様なメンバーにより構成されています。日本のサインデザイン界は今、世界でも最も活発な活動を展開しています。地域の活性化の軸として、企業のイメージ戦略の柱として、その需要は今後もますます増大していくと思われま



展覧会ヴィジュアル（デザイン：藤井北斗）



展示イメージ

報道関係のお問い合わせ：東京ミッドタウン・デザインハブ 電話：03-6743-3776 E-mail：info@designhub.jp
一般からのお問い合わせ：公益社団法人日本サインデザイン協会（SDA） 電話：03-5829-9506 E-mail：sda@sign.or.jp

●展示内容のご紹介

サインを読み解く11のコンテクスト | 77のプロジェクト | 戦後から現代へ

人が古来からコミュニケーションの手法として用いてきたサインの情報伝達表現の要素を、11のコンテクストに分類し、時代を彩った象徴的なプロジェクト77作品に焦点を当てそれぞれの作品のコンセプト、写真、映像、模型、モックアップなどから読み解いていきます。サインのもつ多面的な魅力と、社会との関係性の軌跡をその秀逸な多くのプロジェクトから辿ります。



01 SYMBOL シンボル

社会文化的な意味によって成立するサイン
 約束や共有された理解によって意味が成立し、共同体の価値や理念を象徴する。シンボルとは目に見えない精神を可視化する存在だ。



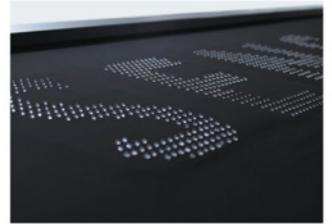
02 ILLUMINATION 光

光源をもって人の心理に働きかけるサイン
 光はより遠くへ情報を届けると同時に、人の心身に直接作用する。空間の印象を動的に変容させ、都市空間の静寂と活気を演出する。



03 PICTOGRAM ピクトグラム

人類共通の視覚言語としてのサイン
 言葉に依存せず瞬時に意味を伝える視覚記号である。言語・文化・年齢・能力の差を越えた、誰もが同時に理解できる共通言語である。



04 TYPOGRAPHY 文字

もっとも高度に制度化されたサイン
 文字は音声や意味を視覚に固定し、社会の記憶と秩序を支える。世界観や美意識を反映した、精緻な情報を正確に伝達する文化基盤だ。



05 COLOR 色

生存を目的とした生命の最古のサイン
 色は本能に働きかける信号として生物界で機能していた。やがて人は感覚と社会的価値とを結び媒体として色に文化的意味を与えた。



06 ARCHITECTURE 建築

存在の目的と機能を内包した都市のサイン
 その外観は用途や理念を語るサインである。地域のシンボルか、機能のアイコンか。内観意匠は人々を目的に誘うサインそのものだ。



07 DIGITAL デジタル

空間を情報が自在に飛び交う未来のサイン
 デジタルなサインは物から環境へ、静止から動的なネットワークへと進化した。未来、物質の境界を越え環境そのものを情報化する。



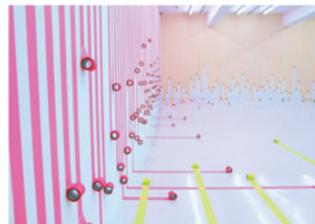
08 SPACE 空間

空間を読み解き、物語とルールを与えるサイン
 場に潜む意味を可視化し、人の行動や感情をコントロールする。サインは対象とする空間に物語とルールを与える重要な情報装置である。



09 MATERIAL 素材

素材選択によって意味を変容させるサイン
 石、木、鉄、布、プラスチック…これら物質の性質、質感や重量がメッセージの質を左右する。素材はサインの意味生成に参与する。



10 INSTALLATION インスタレーション

瞬間性、貴重性ゆえに心に刻まれるサイン
 サインは時間と場所に限定された体験として立ち現れる。今だけという瞬間性、同じ空間の共有が強い印象を生み人々の記憶に残る。



11 EXHIBITION 展示

場の知的体験を設計する骨格としてのサイン
 サインは多層的な情報を統合し空間全体での理解の枠組みを構築する。展示は空間全体を一つの情報装置とした編成行為そのものだ。

Material-tone ひとつの矢印から見えてくる、素材と技術のグラデーション

開発の現場こそが「未来」の源泉です。試行錯誤の積み重ねから、革新的な技術や新素材が生まれ続けています。そこには開発者の情熱と執念とも呼べる力が宿っています。サイン関連10社が同一形状の矢印サインに挑み、技術開発のプロセスと熱量を壁面展示としてダイレクトに伝えます。各社の試行錯誤と創意から見えてくる、未来を切り拓くサインデザインの可能性を探求します。

【展示制作協力】

株式会社ダイカン、株式会社の中川ケミカル、株式会社オオサカネーム、ニチレイマグネット株式会社、株式会社マイサ、株式会社タカショーデック、株式会社平和合金、まどか株式会社、株式会社ユゴ・コーポレーション、株式会社イクイップメント・アンド・ファシリティ・デザイン

PARCO × 五十嵐威暢

PARCOの象徴として受け継がれてきた、五十嵐威暢氏による通称「五十嵐ロゴ」。松本PARCOの外壁で実際に使用されていたネオンサイン「P」の実物を、デザインハブで公開します。あわせて、エントランスのガラス面で使用されていた、木と真鍮で制作された「五十嵐ロゴ」のドアノブも展示します。

【特別展示協力】

株式会社パルコ、五十嵐威暢美術館かぜのび



●関連イベント

SDA60周年記念シンポジウム

「SIGNの多様性と可能性：未来への再定義」

サインデザインがもつ多様性と可能性について徹底討論し、その未来を展望します。サインデザインに携わるプロフェSSIONALをパネリストに迎え、それぞれが考える「SIGNとは」について発表していただきます。多様な解釈と実践を通して、現代におけるサインデザインの役割を再定義し、これからの可能性を探ります。

パネリスト： 宮崎 桂（クリエイティブディレクター）
廣村正彰（グラフィックデザイナー）
宮下信顕（建築家）
平手健一（建築家・デザイナー）

モデレーター：渡辺太郎（アートディレクター）

日時：5月22日（金）16:00-18:00

形式：会場とオンライン（Zoom）配信

会場：インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター（デザインハブ内）

定員：会場参加50名、Zoom配信80名

参加費：会場参加3,300円、Zoom配信3,300円

SDA60周年記念リレーセミナー

「SIGNの多角的研究：未来を切り拓く連続プログラム」

様々な切り口からSIGNの可能性を学ぶ連続セミナーです。未来のデザインに必要な知識を深めるため、革新的な視点を持つスペシャリストをプレゼンターに迎えます。4週にわたるリレー形式のプログラムを通して、デザインの新たな地平を開拓する学びの場を提供します。各回のテーマは独立していますが、連続して参加することで、より包括的な知見を得ることができます。

Day 1【図形】 5月 8日（金） 野老朝雄（美術家）
Day 2【書体】 5月15日（金） 鳥海 修（書体設計士）
Day 3【自然】 5月29日（金） 村上祐資（極地建築家/NPO法人フィールドアシスタント代表）
Day 4【デジタル】 6月 5日（金） 豊田啓介（建築家/東京大学生産技術研究所特任教授/NOIZ）
モデレーター：平手健一（SDA/建築家・デザイナー）

<各回共通>

形式：会場とオンライン（Zoom）配信

時間：18:00-19:15 セミナー（受付17:30-）、19:30-20:30 交流会

会場：インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター（デザインハブ内）

定員：会場参加50名、Zoom配信80名

参加費（各回ごと）：セミナー（会場参加・Zoom配信とも）＝SDA会員2,200円、一般3,850円

交流会（会場参加のみ）＝共通3,300円